

第3期中期目標と第4期中期目標（素案）との比較

行番号	第3期中期目標	第4期中期目標（素案） ※青字：3/24時点の案 赤字：評価委員会意見・大学意見を踏まえた案	検討内容 ※黒字：3/24時点の検討内容 赤字：評価委員会意見・大学意見を踏まえた検討内容
	重点目標	重点目標	
	(1) 教育の質の向上	(1) 教育の質の向上	継続
	(2) 熊本地震からの復興支援を含めた地域に貢献する教育研究の推進	(2) 大規模自然災害 からの復興支援を含めた地域 社会の発展 に貢献する教育研究の推進	【追加】 ・熊本地震に加え、令和2年7月豪雨や今後起こりうる災害の観点も踏まえ、「大規模自然災害」に修正。 ・大学意見を踏まえ、「地域社会の発展」に修正。 〈大学意見〉 基本目標に「地域社会の発展に貢献する知的創造の拠点としての大学」とあるため、合わせてはどうか。
	(3) グローバル化の推進	(3) グローバル化の推進	継続
	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	継続
1	I 教育に関する目標	I 教育に関する目標	継続
2	○公立大学法人熊本県立大学は、次のような人材を育成する。	○公立大学法人熊本県立大学は、次のような人材を育成する。	
3	<学士課程教育>	<学士課程教育>	
4	・ 論理的な思考かつグローバルな視点で自ら課題を設定・分析し、創造的な解決策が提示できる人材。また、総合的な判断ができる人材。 ・ 積極性、自律性、行動力を身につけ、社会状況の変化に柔軟に対応できる人材。 ・ 地域社会や国際社会に興味・関心を持ち、多様性を認めることができる人材。 ・ コミュニケーション能力を持ち、協調性があり、社会において人的ネットワークを形成できる人材。 ・ 高い職業観を持ち、主体的に自らの職業人生を構想・設計できる人材。	・ 論理的な思考かつグローバルな視点で自ら課題を設定・分析し、創造的な解決策が提示できる人材。また、総合的な判断ができる人材。 ・ 積極性、自律性、行動力を身につけ、社会状況の変化に柔軟に対応できる人材。 ・ 地域課題の解決に向けた意欲 と国際社会への興味・関心を持ち、多様性を認めることができる人材。 ・ コミュニケーション能力を持ち、協調性があり、社会において人的ネットワークを形成できる人材。 ・ 高い職業観を持ち、主体的に自らの職業人生を構想・設計できる人材。	【追加】 ・企業等アンケートの結果を踏まえ、第3期中期目標に表現されてなかった「地域課題の解決」を追加。 企業等アンケート Q) 県立大学に特に取り組んでほしい事項について(回答数上位項目) ①コミュニケーション能力 ②社会状況の変化への柔軟な対応 ③ 地域課題の解決 〈参考：評価委員会意見〉 グループディスカッションなどの対話による意見をまとめる力や、自分の意見を簡潔に話し、自分の意見を相手に伝える力などのアウトプットを重視した教育プログラムに期待
5	<大学院教育>	<大学院教育>	
6	・ 国内外の諸課題の発見・解決のために専門的知識や研究能力を応用できる人材。特に博士後期課程においては自立して研究を遂行できる人材。	・ 国内外の諸課題の発見・解決のために専門的知識や研究能力を応用できる人材。特に博士後期課程においては自立して研究を遂行できる人材。	継続
7	(1) 入学者受入れに関する目標	(1) 入学者受入れに関する目標	継続
8	① 入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)に基づき、大学入学者選抜改革を踏まえた多様な選抜方法を活用して、大学が求める学生を確保する。 また、大学のグローバル化を推進するため、外国人留学生の増加を図る。	① 大学入学者選抜改革を踏まえつつ、入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)に基づき、選抜方法を工夫 して、大学が求める 多様な 学生を確保する。 また、大学のグローバル化を推進するため、外国人留学生の増加を図る。	【拡充】 ・中央教育審議会において、多様な学生を受け入れる体制整備及び多様な教員による多様な教育研究を展開することの必要性が答申されており、「多様な学生」の観点を考慮し、下線部を追加。 ※多様な学生の確保：社会人、帰国子女、生活保護世帯に属する者、農林水産科学校の選抜者等の特別選抜の充実 中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」(H30.11.26) “高等教育は「多様な価値観を持つ多様な人材が集まることにより新たな価値が創造される場」＝「多様な価値観が集まるキャンパス」になることが必要” 〈参考：白石理事長発言〉 「帰国子女枠」をうまく宣伝する。英語のサイトを作って広報し、日本人学校などにPRしていくことを考えても良いかもしれない。 【修正】 ・大学意見を踏まえ、語順を修正 〈大学意見〉 大学者入学選抜改革自体はアドミッションポリシーでは直接触れていないため、語順を入れ替えてはどうか。

第3期中期目標と第4期中期目標（素案）との比較

行番号	第3期中期目標	第4期中期目標（素案） ※青字：3/24時点の案 赤字：評価委員会意見・大学意見を踏まえた案	検討内容 ※黒字：3/24時点の検討内容 赤字：評価委員会意見・大学意見を踏まえた検討内容
9	② 大学院では、高度な専門的知識及び研究能力の習得を目指す意欲あふれる人材について、積極的かつ効果的な広報活動により、学部卒業生や社会人など多様な分野からの受入れを推進する。	② 大学院では、高度な専門的知識及び研究能力の習得を目指す意欲あふれる人材について、積極的かつ効果的な広報活動により、 <u>内部進学者に加えて</u> 、社会人など多様な <u>人材</u> の受入れを推進する。	<p>【修正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学意見を踏まえ、文言を修正 <p>〈大学意見〉 「学部卒業生」は「内部進学者」と呼ぶのが一般的。また、卒業生や社会人を「分野」とは呼ばないのではないか。</p>
10	(2)教育内容・方法等に関する目標	(2)教育内容・方法等に関する目標	継続
11	① 熊本地震からの創造的復興及び防災・減災に関する教育を推進するとともに、県内全域にわたって地域課題の解決に取り組む実践的・総合的な教育の更なる充実を図る。	① <u>大規模自然災害</u> からの創造的復興及び防災・減災に関する教育を推進するとともに、県内全域にわたって地域課題の解決に取り組む実践的・総合的な教育の更なる充実を図る。	<p>【追加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震に加え、令和2年7月豪雨や今後起こりうる災害の観点も踏まえ、「大規模自然災害」に修正。
12	② グローバル化する社会に対応するため、英語をはじめとした外国語能力の向上を図るとともに、国際的な視野と認識を高める教育を充実する。	② グローバル化する社会に対応するため、 <u>より実践的な学びを通して英語をはじめとした外国語能力の向上を図る。また、地域社会の変容も踏まえた異文化理解及び多文化共生の促進に向けた</u> 教育を充実する。	<p>【拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白石理事長の意向や、TSMCの進出に伴い、海外企業や外国人労働者などの増加などが想定される地域の事情を考慮し、「より実践的な学びを通して」を追加。 ※実践的な学び：TOEIC®IPテストの全員受験、もやいすとグローバル育成プログラムやIntensive English（英語漬け環境での短期集中学習）の着実な実施 <p>〈白石理事長発言〉 英語でビジネスができる人を育てる。 「帰国子女枠」をうまく宣伝する。英語のサイトを作って広報し、日本人学校などにPRしていくことを考えても良いかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業等アンケートから「異文化理解の促進」を追加。 <p>・評価委員会（3/24開催）での委員意見や大学意見を踏まえ、「地域社会の変容も踏まえた多文化共生の促進」を追加。</p> <p>〈評価委員会意見〉 語学面や生活面で県立大学が何かサポートできれば、学生にとってもいいのではないかと。 台湾というのは特化してもいいのではないかと。</p> <p>〈大学意見〉 総務省でも「国籍などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく『地域における多文化共生』を地域の国際化の第3の柱として推進」しており、TSMC進出により多文化共生の促進も重要と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価委員会（3/24開催）での意見「平和に関すること」については、本項目で読み込む。 <p>〈評価委員会意見〉 県立大学としても何らかの考え方や発信というものを加えていただくのはどうか。 実際に平和の実現のためにどうするかということまで突っ込むと難しいが、考える機会を作ってあげるとは重要。</p> <p>〈参考：白石理事長発言〉 平和に関することについて、視野を広げる機会、学生にいろいろな機会を与えるということは重要。</p>

第3期中期目標と第4期中期目標（素案）との比較

行 番 号	第3期中期目標	第4期中期目標（素案） ※青字：3/24時点の案 赤字：評価委員会意見・大学意見を踏まえた案	検討内容 ※黒字：3/24時点の検討内容 赤字：評価委員会意見・大学意見を踏まえた検討内容
13	<p>③ 学生の学修意欲や教育効果の向上につながるよう、教育課程や教育方法等の検証・改善を行い、教育内容・方法等の質的向上を図る。特に、学生の学修時間の把握や大学での学修成果の可視化等に取り組み、学生の視点に立った教育の実現を図る。</p>	<p>③ 学生の学修意欲や教育効果の向上につながるよう、教育課程や教育方法等の検証・改善を行い、<u>社会の要請に合わせた教育内容・方法等の質的向上</u>を図る。特に、<u>大学での可視化された学修成果等</u>に基づき、学生の視点に立った教育の実現を図る。</p>	<p>【拡充】 ・評価委員会（3/24開催）での委員意見や白石理事長の意向を踏まえ、「社会の要請に合わせた」を追加。 ※社会の要請：ライフサイエンス、環境、カーボンニュートラル、DXの推進、データサイエンス、デジタル人材、起業・事業承継支援等</p> <p>〈評価委員会意見〉 企業・自治体には(デジタル)人材がいないので、人材を育成して地域に貢献するというのもありなのは。カーボンニュートラルとDXによる大きな社会変革が起きることを、学生全員に理解して頂き、その中で継続して自己変革が出来る能力を身に付けて欲しい。 特に、データサイエンス、AIに関するリテラシーが重要と考える。</p> <p>〈白石理事長発言〉 本学は教育大学。広くしっかりとした土台を付けるところ。 学生には最先端で何が起きているかを学んでほしい。今の潮流は、SDGsではなく、ライフサイエンス、環境やカーボンニュートラル等。 データ分析ができて、英語でビジネスができる人を育てる 今後起業支援と同じくらい、事業承継の話が重要になる。 データサイエンスは全部のベースとなるもの。</p> <p>【修正】 ・大学意見を踏まえ、「学生の学修時間の把握」を削除</p> <p>〈大学意見〉 「学生の学修時間の把握」は目標としては具体的すぎると思われる。</p>
14	<p>④ 教育の質の維持向上のため、<u>大学の特性・専門性に応じた優秀な教員を確保する。</u> また、学生のニーズや社会の要請に応えるため、教員一人ひとりがより高い水準の教育を行うことが出来るよう能力向上を図る。</p>	<p>④ 教育の質の維持向上及び学生のニーズや社会の要請に応えるため、教員一人ひとりがより高い水準の教育を行うことが出来るよう能力向上を図る。</p>	<p>【見直し】 ・白石理事長の意向（大学意見）を踏まえ、「優秀な教員の確保」に係る文言を削除。</p> <p>〈白石理事長・大学意見〉 優秀な教員の確保は当然のことで、多様なバックグラウンドを持つ人材については、採用に係る審査の結果であって、目標として掲げるものではないと考える。</p> <p>※社会の要請：ライフサイエンス、環境、カーボンニュートラル、DXの推進、データサイエンス、デジタル人材、起業・事業承継支援等 ※能力向上：全学、学部、研究科におけるFD（ファカルティ・ディベロップメント）の着実な実施の継続。 〈参考〉FD…大学の教員が授業の内容や方法を改善し、向上させるために実施する組織的な取組のこと。</p>
15	<p>⑤ 教育研究の進展、社会の要請、学生のニーズに柔軟に応える教育を行うため、必要な実施体制を整備する。</p>	<p>⑤ 教育研究の進展、社会の要請、学生のニーズに柔軟に応える教育を行うため、必要な実施体制を整備する。</p>	<p>【継続】 ※社会の要請：ライフサイエンス、環境、カーボンニュートラル、DXの推進、データサイエンス、デジタル人材、起業・事業承継支援等</p>
16	<p>(3)学生支援に関する目標</p>	<p><u>5</u> 学生支援に関する目標</p>	<p>【修正】 ・大学意見を踏まえ、中項目5として修正。</p> <p>〈大学意見〉 第3期中期目標期間中に施行された修学支援法（R2～）に基づく授業料減免・奨学金制度について、R6年度からは対象が広がる予定であり、「学生支援」部分に拡充の動きがある。また、（公財）大学基準協会の認証評価でも教育と学生支援が別立ての項目となっている。</p>
17	<p>① 学生の自主性を育み人間的成長を促すため、ボランティア活動や課外活動の活性化を図るとともに、必要な支援を行う。</p>	<p><u>(1)</u> 学生の自主性を育み人間的成長を促すため、ボランティア活動や課外活動の活性化を図るとともに、必要な支援を行う。</p>	<p>継続</p>
18	<p>② 学生の進学や修学にかかる経済的支援を充実し、その内容を積極的に公表する。</p>	<p><u>(2)</u> 学生の進学や修学にかかる経済的支援を充実し、その内容を積極的に公表する。</p>	<p>継続</p>
19	<p>学生が安心して学生生活を送ることが出来るように、心身の健康に関する相談・支援を行う。</p>	<p><u>(3)</u> 学生が安心して学生生活を送ることが出来るように、心身の健康に関する相談・支援を行う。</p>	<p>継続</p>

第3期中期目標と第4期中期目標（素案）との比較

行 番 号	第3期中期目標	第4期中期目標（素案） ※青字：3/24時点の案 赤字：評価委員会意見・大学意見を踏まえた案	検討内容 ※黒字：3/24時点の検討内容 赤字：評価委員会意見・大学意見を踏まえた検討内容
20	④ 地域企業や地域社会と連携したキャリア教育を推進し、学生の就業力を向上させる。	(4) 地域企業や地域社会と連携したキャリア教育を推進し、学生の就業力を向上させる。	継続
21	⑤ 学生が求める企業・就職情報の収集・提供により就職支援を充実する。特に、県内企業と学生とのマッチングやインターンシップを推進し、県内への就職を促進する。	(5) 県内企業と学生とのマッチングや地域産業界と協働したインターンシップを推進し、県内への就職を促進する。	<p>【拡充】</p> <p>・企業等アンケートの結果や中央教育審議会の答申を踏まえ、若者の地元定着促進に向けて地域との連携をより一層強化するという意図を込めて「地域産業界と協働した」を追加。</p> <p style="background-color: #ffffcc;">企業等アンケート Q) 目標策定に当たって特に考慮すべき社会課題・県内の動向(回答数上位項目) ①地方創生の取組強化(若者の地元定着促進等) ②DX(デジタル技術を用いた生活やビジネス、教育の変容)の促進</p> <p style="background-color: #ffffcc;">中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」(H30.11.26) “大学と社会の接続を考える際には、(中略)学修の質を向上させる機会としての「インターンシップ」の充実等が求められる”</p>
22	2 研究に関する目標	2 研究に関する目標	継続
23	(1)研究の方向に関する目標	(1)研究の方向に関する目標	継続
24	大学の特色ある教育や地域社会の発展のため、熊本県立大学として独自性のある研究及び地域課題の解決に役立つ研究活動を推進することとし、国内外で高く評価される研究水準を目指す。 また、熊本地震からの創造的復興及び防災・減災に関する研究を推進する。	大学の特色ある教育や地域社会の発展のため、熊本県立大学として独自性のある研究及び地域課題の解決に役立つ研究活動を推進することとし、国内外で高く評価される研究水準を目指す。 また、 県内における大規模自然災害 からの創造的復興及び防災・減災に関する研究を推進する。	<p>【追加】</p> <p>・熊本地震に加え、令和2年7月豪雨や今後起こりうる災害の観点も踏まえ、「県内における大規模自然災害」に修正。 ※創造的復興及び防災減災に関する研究：緑の流域治水～</p>
25	(2)研究の支援に関する目標	(2)研究の支援に関する目標	継続
26	優れた研究を推進するため、組織的な研究支援を促進する。	優れた研究を推進するため、組織的な研究支援を促進する。	継続
27	3 地域貢献に関する目標	3 地域貢献に関する目標	継続
28	(1) 県、市町村、企業その他の団体との連携を深め、それらの団体を支援するシンクタンク機能を充実・強化する。	(1) 県、市町村、企業その他の団体との連携を深め、 DX推進の取組等 、それらの団体を支援するシンクタンク機能を充実・強化する。	<p>【追加】</p> <p>・企業等アンケートの結果を踏まえ、シンクタンク機能の例示として「DX推進の取組」を追加。</p> <p style="background-color: #ffffcc;">企業等アンケート Q) 目標策定に当たって特に考慮すべき社会課題・県内の動向(回答数上位項目) ①地方創生の取組強化(若者の地元定着促進等) ②DX(デジタル技術を用いた生活やビジネス、教育の変容)の促進</p>
29	(2) 大学・試験研究機関等との連携を強化して地域産業に関する共同研究等を行い、研究成果の公表や現場への普及活動等を通じて、研究成果を地域社会に役立てる。	(2) 大学・試験研究機関等との連携を強化して地域産業に関する共同研究等を行い、研究成果の公表や現場への普及活動等を通じて、研究成果を地域社会に役立てる。	継続
30	(3) 県民の学習ニーズに応えるため、生涯学習と専門職業人の継続的な職業能力開発の支援について、更なる充実を図る。	(3) 県民の学習ニーズに応えるため、生涯学習と専門職業人の継続的な職業能力開発の支援について、更なる充実を図る。	継続
31	4 国際交流に関する目標	4 国際交流に関する目標	
32	(1) 国際的な知見の取得や異文化への理解を深め、グローバル化する社会において必要な素養を幅広く涵養するため、学生の国際交流を更に推進する。	(1) 国際的な知見の取得や異文化への理解を深め、グローバル化する社会において必要な素養を幅広く涵養するため、 地域社会の変容も踏まえ 、学生の国際交流を更に推進する。	<p>【追加】</p> <p>・評価委員会(3/24開催)での委員意見を踏まえ、「地域社会の変容も踏まえ」を追加。</p> <p style="background-color: #ffffcc;">〈評価委員会意見〉 語学面や生活面で県立大学が何かサポートできれば、学生にとってもいいのではないかと。 台湾というのは特化してもいいのではないかと。</p>

第3期中期目標と第4期中期目標（素案）との比較

行 番 号	第3期中期目標	第4期中期目標（素案） ※青字：3/24時点の案 赤字：評価委員会意見・大学意見を踏まえた案	検討内容 ※黒字：3/24時点の検討内容 赤字：評価委員会意見・大学意見を踏まえた検討内容
33	(2) 外国人留学生の受入れを促進するために、積極的かつ効果的な情報発信や受入体制の充実を行うとともに、 <u>グローバル化に対応した教育研究環境の整備を推進する。</u>	(2) 外国人留学生の受入れを促進するために、積極的かつ効果的な情報発信や受入体制の充実を行う。	【見直し】 ・大学意見を踏まえ、「グローバル化に対応した・・・整備を推進する」を削除。 〈大学意見〉 外国人留学生数を増やすためには、奨学金及び学生寮を有する（あるいは、大学による民間住宅の借上げ、住居に係る支援金等）ことが重要で、これに係る新たな予算措置を期待、誤解を生じることを懸念する。
34	(3) 研究水準の向上や教育内容の充実のため、諸外国の大学等との連携を深め、研究者交流、国際共同研究等を推進する。	(3) 研究水準の向上や教育内容の充実のため、諸外国の大学等との連携を深め、研究者交流、国際共同研究等を推進する。	継続
II 業務運営の改善・効率化に関する目標		II 業務運営の改善・効率化に関する目標	
35 1 大学運営の改善に関する目標		継続	
36	理事長と学長のリーダーシップのもと、社会状況の変化に対応するため、柔軟かつ機動的な大学運営を推進する。	理事長と学長のリーダーシップのもと、社会状況の変化に対応するため、柔軟かつ機動的な大学運営を推進する。	継続
37 2 教育研究組織の見直しに関する目標		【修正】	
38	社会の要請に積極的に応えるため、学部学科、附属機関等の教育研究組織のあり方について不断に検討し、必要に応じ適切に見直す。	社会の要請に積極的に応えるため、学部学科、附属機関等の教育研究組織のあり方について不断に検討し、必要に応じ適切に見直す。	〈参考：大学意見〉 学部学科等、教育研究組織の見直しは教育の質の向上のために行うものであるため、業務運営よりも「I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標」のほうがふさわしいと思われる。
39 3 人事に関する目標		継続	
40	大学の業務全般について適切かつ効果的な運営を図るため、教職員の大学運営に対する積極的な参加を推進するとともに、適正な人事・評価を行う。	大学の業務全般について適切かつ効果的な運営を図るため、教職員の大学運営に対する積極的な参加を推進するとともに、適正な人事・評価を行う。	継続
41 4 事務等の効率化・合理化に関する目標		継続	
42	事務の簡素化・合理化を進めるとともに、 <u>効率的な事務処理</u> を図る。	事務の簡素化・合理化を進めるとともに、 <u>DXの推進等による効率的な事務処理</u> を図る。	【拡充】 ・企業等アンケートの結果を踏まえ、「DXの推進等による」を追加。 ※DXの推進は県の基本計画にも掲げられており、大学運営においてもその充実を図る。 企業等アンケート Q) 目標策定に当たって特に考慮すべき社会課題・県内の動向(回答数上位項目) ①地方創生の取組強化(若者の地元定着促進等) ②DX(デジタル技術を用いた生活やビジネス、教育の変容)の促進
III 財務内容の改善に関する目標		継続	
43 1 自己収入の増加に関する目標		継続	
44	安定的な財政基盤を確立するため、授業料や外部教育研究資金等の自己収入の確保に努める。	安定的な財政基盤を確立するため、授業料や外部教育研究資金等の自己収入の確保に努める。	継続
45 2 経費の抑制に関する目標		継続	
46	既に実施している経費節減等の取組を検証しつつ、大学の業務全般について更に効率的な運営に努め、経費の抑制を図る。	既に実施している経費節減等の取組を検証しつつ、大学の業務全般について更に効率的な運営に努め、経費の抑制を図る。	継続
IV 自己点検・評価及び情報提供に関する目標		継続	
47 1 評価の充実に関する目標		継続	
48	自己点検・評価を定期的実施するとともに、第三者機関の評価を受け、これらの評価結果を教育研究や組織運営の改善に活用するという組織的なマネジメントサイクルを充実させる。	自己点検・評価を定期的実施するとともに、第三者機関の評価を受け、これらの評価結果を教育研究や組織運営の改善に活用するという組織的なマネジメントサイクルを <u>着実に運用</u> する。	【見直し】 ・大学意見を踏まえ、 <u>文言を見直し</u> 〈大学意見〉 第3サイクルの認証評価では内部質保証が重視され、「組織的なマネジメントサイクルを充実させる」ことが必要とされたため、第3期中期計画において、充実させるためのシステムを構築し、定着しており、運用の段階になっている。

第3期中期目標と第4期中期目標（素案）との比較

行 番 号	第3期中期目標	第4期中期目標（素案） ※青字：3/24時点の案 赤字：評価委員会意見・大学意見を踏まえた案	検討内容 ※黒字：3/24時点の検討内容 赤字：評価委員会意見・大学意見を踏まえた検討内容
49	2 情報公開、情報発信等の推進に関する目標	2 情報公開、情報発信等の推進に関する目標	継続
50	大学の組織運営及び教育研究活動等の実績等については、積極的に情報を公開・発信し、社会への説明責任を果たすとともに、大学の認知度を高める。	大学の組織運営及び教育研究活動等の実績等については、積極的に情報を公開・発信し、社会への説明責任を果たすとともに、大学の認知度を高める。	継続
	Ⅴ その他業務運営に関する重要目標	Ⅴ その他業務運営に関する重要目標	継続
51	Ⅰ 施設設備の整備・活用等に関する目標	Ⅰ 施設設備の整備・活用等に関する目標	継続
52	既存の施設や設備の適正な維持管理、計画的な整備改修により良好な教育研究環境を保持するとともに、施設設備の有効活用を推進する。 なお、整備改修に当たっては、バリアフリー・ユニバーサルデザイン、環境保全等に十分配慮する。	既存の施設や設備の適正な維持管理、計画的な整備改修により良好な教育研究環境を保持するとともに、施設設備の有効活用を推進する。 なお、整備改修に当たっては、バリアフリー・ユニバーサルデザイン、環境保全等に十分配慮する。	継続
53	2 安全管理に関する目標	2 安全管理に関する目標	継続
54	(1) 学生の個人情報をはじめとする情報管理及びリスク管理を徹底する	(1) 学生の個人情報をはじめとする情報管理及びリスク管理を徹底する	継続
55	(2) 自然災害や火災、設備事故等のあらゆる災害に備えて防災対策を強化するとともに、大学における事業継続計画（BCP）を策定する。	(2) <u>自然災害や火災、設備事故等のあらゆる災害に備えて防災対策を強化する。</u>	【見直し】 ・令和元年度に事業継続計画（BCP）を策定済みのため、一部削除
56	(3) 教職員の心身の健康保持に努め、快適な職場環境の形成を促進する。	(3) 教職員の心身の健康保持に努め、快適な職場環境の形成を促進する。	継続
57	3 人権に関する目標	3 人権に関する目標	継続
58	人権尊重に関する啓発を推進し、人権が不当に侵害され、良好な教育・研究・職場環境が損なわれることのないよう、全学的な取組を進める。	人権尊重に関する啓発を推進し、人権が不当に侵害され、良好な教育・研究・職場環境が損なわれることのないよう、全学的な取組を進める。	継続